

## 挨拶

会 長  
野 間 口 有



皆さんこんにちは。今年度から吉野前会長の後を引き継がせていただいております野間口でございます。

吉野前会長は、本田さんの経営手腕も見事ございましたけれども、知財あるいは技術経営といった点で日本の指導的な立場の方であります。吉野前会長に比べますと甚だ重量感に欠けるかなと私も悩んだのですが、次の2年間会長を引き継げと指名をいただきまして、大変光栄に思っているところでございます。皆さんと力を合わせて頑張っていきたいと思っております。

本日はお足元の悪い中、特許庁の守屋技監にも来賓としてご出席いただいておりますし、日ごろ日本の知財を実質的に引っ張っている皆さん方に一堂に会していただきまして、ほんとうにご苦労さまでございます。

知財、知財と今やまさに我が国は知財立国と言ってもいい状況で、各方面で知財への関心が高まっております。いろんな施策も行われております。しかし、ここに参集しておられる皆さんについて考えますと、そういうふうには世間で騒がれるずっと前から地道に知財について活動してこられた方々、実質的に日本の知財を引っ張ってこられた方々だと思っております。そういう皆さんから見たら、少し違うなど感じられるのではないのでしょうか。いろいろ世間で騒がれ熱く語られるほど自分の会社は、あるいは自分の団体は知財というものでほんとうに戦略的に脱皮しているのかという点で、もう一つ物足りない思いがあるのではなかろうかと思っております。

私は会社に入りまして、研究所時代が長く、知財への関心が非常に高かったということで、自分ではいささか分かっているつもりでございます。しかし、ほんとうに知財を生かした戦略的な経営まで2007年度の日本知的財産協会が掲げております経営に資する知財活動をサポートしようというのは、まさに今必要なことで、もう一つレベルを上げる必要があると思うわけでございます。ここにおられる皆さん方は、そういう思いを強くしておられるのではないかと思います。

現在私は、日本経団連の知財委員長もしておりますので、この知財協の会長、あるいは知財委員会の委員長として、皆さん方の“もう一つ”という思いをできるだけ満足感に変える、少しでも達成感あるいは充実感に変えるような活動を続けていくことが、ここ2年間の会長としての私の大きな役割と思っております。いろいろ、そういった点で皆さん方から参考になるような意見を賜ればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

とは言いますものの、先ほど申しましたように、知財への取り組みは、国を挙げてやっております。以前は産業界だけが頑張る片肺飛行的な頑張りじゃないかと我々は気にしておりましたが、大学等

## ※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

も非常に力強い取り組みが行われております。知財推進計画が毎年設定されまして、具体的な解決へ向けての取り組みがなされております。

産業セクターとしては、知財協に集う我々が、知財推進計画を実質的に推進していく大半の役割を担っているのではないかと。そういう推進役になるような知財協に皆さんとともにしていきたいということでございます。

それから、もう1つは、推進計画というのは、毎年リニューアルされまして、さらにもう一段上のターゲットを定めて取り組もうという形になっております。各年度の新しい推進計画へ向けて、産業界からの意見を発信する重要な役割もあろうかと思っております。これもしっかりとやっていきたいと思っております。

それから、経営に資する知財マネジメントという、おそらく最初のほうで理事長からご説明があったと思いますが、この重点施策の中に挙げられている項目はどれも重要な項目でございますが、特に人材育成、活用といった項目が挙げられております。私はこれは今、知財協に期待される大変重要な項目ではないかと思っております。

先日の発明の日に大阪の近畿経産局で主催されました催しで、人材育成活用の話をさせていただきました。その会場で、この知財という専門的な技術やスキルで会社の壁を乗り越えて、あるいは年齢の壁を乗り越えて、多くの方々が知財立国の基礎を支えるような活動を始められつつあるという話を聞いてまいりました。

私は日ごろ、そういった取り組みを日本社会としても大いに強化していくことが日本社会の活性化、知的創造力の活性化という面で重要ではないかと思っております。知財協の活動方針の中にもそういったことが謳われておりまして、ほかの事項もそうでありますけれども、これは大いに力を入れていきたいと思っている次第です。技術経営、あるいは知財経営といった視点でこうしたスキルに優れた人が社会に参与していくことによって、これからの日本の産業競争力が一般市民のレベルから上がっていく、またそういった若い技術者からシニアまで含めて活動しているさまを見て、よし、自分も理工系に進んでいろいろ新しい知財を生み出す仕事に就こうというムードを盛り上げるという点でも、大いに力を発揮するのではないかと思っております。これからの生産性の高い産業社会づくりに知財協の果たすべき役割は非常に大きいのではないかと存じます。

そういう認識のもとで皆さん方と力を合わせて頑張っていきたいと思っておりますので、ご協力、ご支援のほどよろしく申し上げます。

以上で私の挨拶を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。